



第33号

令和3年12月1日  
高山赤十字病院

## 病院長よりこんにちは！

拝啓 師走、何かと気ぜわしいこのごろとなりましたが、皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。日頃より開業医の先生方はじめ関係機関の皆さまには、患者さんのご紹介をはじめ、相互連携にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスは第5波が収束し飛驒にも観光客が戻りつつあるようですが先般、当院の空床がほとんどない状況に陥りました。急遽延期可能な予定入院の制限、そして三次救急以外を制限し、その他一部の救急対応を久美愛厚生病院にお願いしました。幸い40時間余りで解除できましたが久美愛厚生病院、消防署のご協力に感謝いたします。例年この時期から冬にかけて入院利用率は高くなってくるのですが、このように逼迫したことはありませんでした。今後は急激な入院増加に対応できるように各科の正確な入院予約、退院予定を事前に把握してベッドコントロールを強化していきたいと思っております。またその一方で新型コロナウイルス感染に対しては今後押し寄せるかも知れない第6波に備え、職員の3回目のワクチン接種など万全の対策を進めて参ります。

向寒の折、丁寧な手洗い・うがい・こまめな消毒の基本の感染予防対策を実践いただき、健やかな年末をお過ごしいただきますようお願い申し上げます。

敬具  
病院長 清島 満

【同封文書】

○病院長あいさつ「病院長よりこんにちは！」

岐阜県難聴児支援センター開設のお知らせ ..... P2

退任・新任医師のご案内 ..... P4

年末年始・外来診療のご案内 ..... P5

- 外来担当医表 12月分 ○高山赤十字病院診療案内
- 地域連携係よりお知らせ ○診療科外来担当医一覧（初診）
- 研修会案内 ①令和3年度がん看護研修会  
②臨床倫理講演会 WEB 研修会



## ◆◆岐阜大学医学部附属病院に

### 「岐阜県難聴児支援センター」が開設されました◆◆

11月1日、岐阜大学医学部附属病院に耳の聞こえに不安のある子どもや家族の相談に乗る「岐阜県難聴児支援センター」が開設されました。

《岐阜大学医学部附属病院ホームページより抜粋》

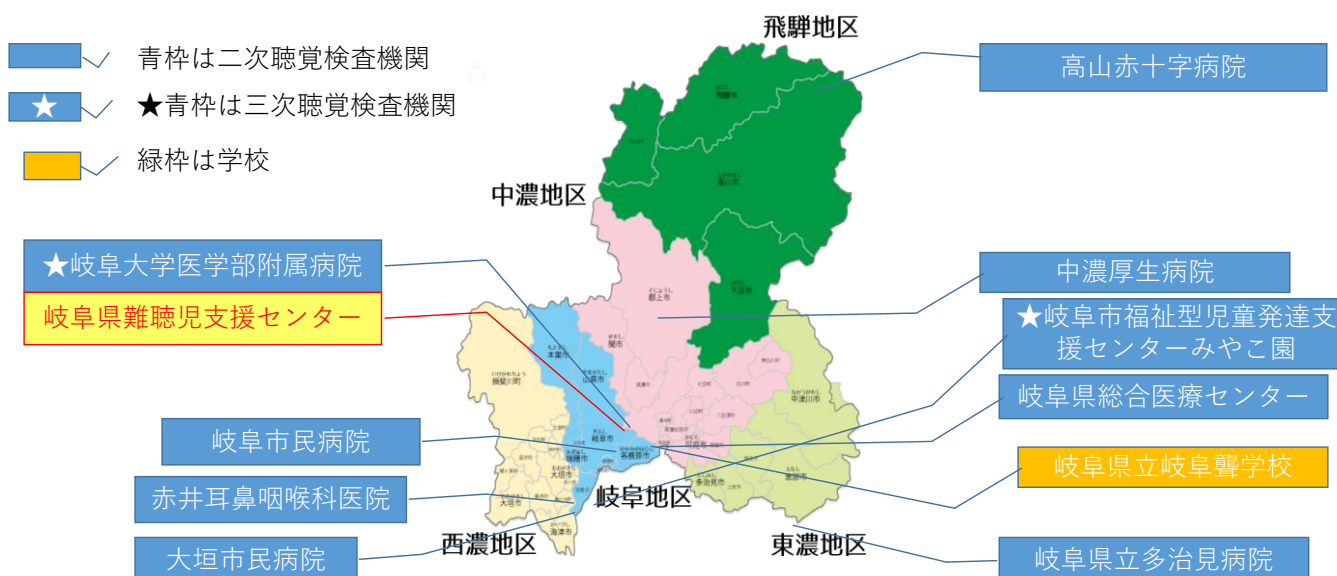
生まれつき難聴のお子さんは、できるだけ早期、特に生後6ヶ月以内に療育を開始されることで、その後の言語発達やコミュニケーション能力の獲得が良好になることが報告されています。そこで、難聴の早期診断が非常に重要になってきます。

最近では出生後1週間以内に産科で新生児聴覚スクリーニング検査を盛んに行うようになってきました。一方、新生児聴覚スクリーニング検査の結果、難聴又はその疑いとなったお子さんのご家族が抱える不安・疑問・悩みは想像を絶するものと思われます。当センターではそうした不安や疑問などの相談をお受けし、医療機関・療育機関・行政機関などと関わりながら学齢期までの一貫したサポートを行っていきます。

また、新生児聴覚スクリーニング検査の結果にかかわらず、どのような成長過程のお子さんにおいても、きこえについて抱かれる不安をサポートします。

飛騨地域の方については、気軽に相談していただけるよう電話相談・出張相談を行うほか、きこえについての理解を深めるため、保護者の方向けの学習会なども行っていきます。お子さんの耳のきこえに不安を感じられている方は岐阜県難聴児支援センターにぜひご相談ください。

## 聴覚スクリーニング検査機関



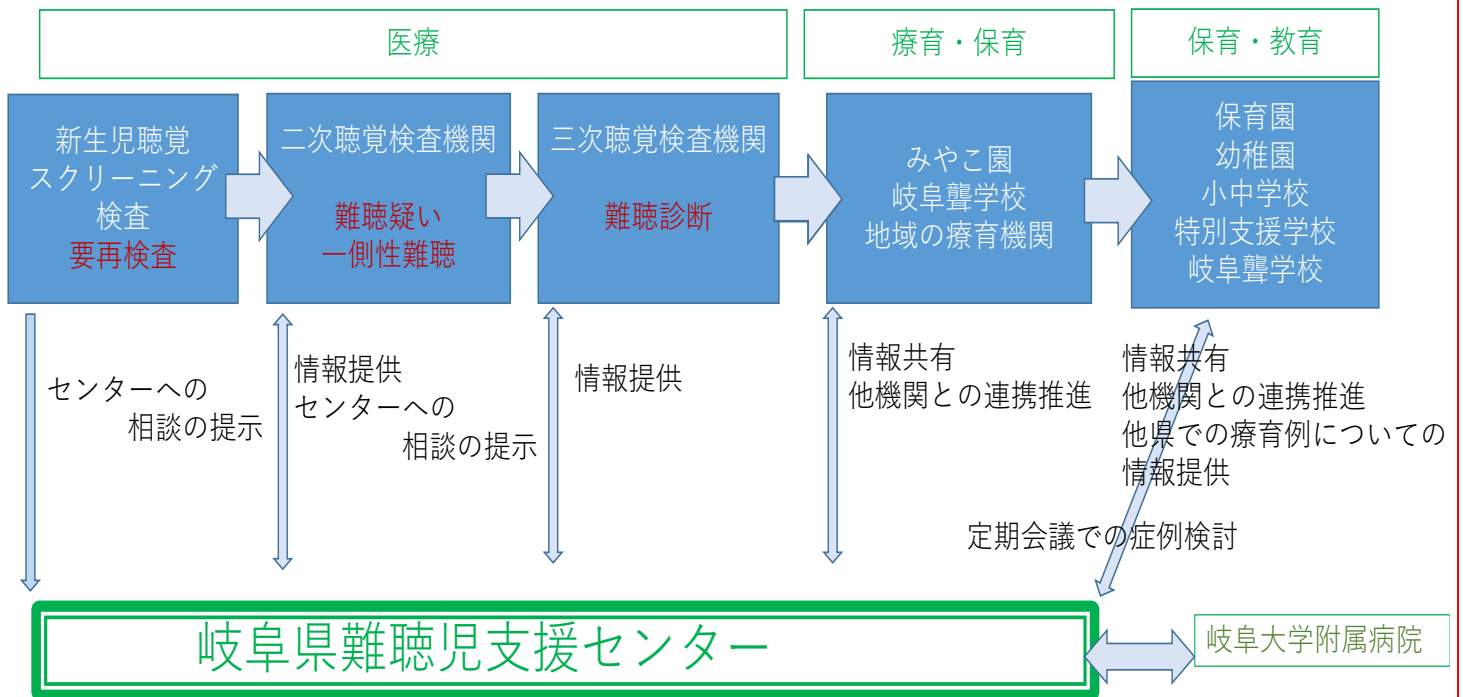


# 一貫したサポート体制

生後1か月←/

生後3か月←/

生後6か月←/



## 《岐阜県難聴児支援センター》

[HP] <https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/origin/gifu-deaf-center/>

[電話] 058-230-6198

[FAX] 058-230-6199

[MAIL] [g\\_nantyo@gifu-u.ac.jp](mailto:g_nantyo@gifu-u.ac.jp)

センターには医師、言語聴覚士ら5名の職員がおり、当事者の相談に丁寧に応じることで難聴の早期発見や必要な医療、療育に繋がります。当院は飛騨地域の二次検査機関でありセンターとスムーズな連携を行ってまいります。

ちょっとしたご相談もお気軽に当院・耳鼻咽喉科までお問合せください。



◆◆11月・退任&新任医師のご紹介◆◆

【退任】

診療科	氏名	卒年
内科	ほりや ゆきひろ 堀谷 幸宏	H26年

【新任】

診療科	氏名	卒年
産婦人科	周産期母子・小児医療センター長 あらほり けんじ 荒堀 憲二	S54年





## 《年末年始・外来診療のごあんない》

年末は、12月28日（火）まで通常どおり外来診療を行います。  
年始は、1月4日（火）から通常どおり外来診療をはじめます。  
救急外来は通常どおり運営します。

### 2021年12月 - 2022年1月

日	月	火	水	木	金	土
12/12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1/1
2	3	4	5	6	年末・年始休み	
9	10	11	12	13	14	15



冬のアクティビティの季節ですね！



## ◇◇『先生ってこんな人』シリーズ②③◇◇

開業医の先生と「顔の見える関係」を築き、安心して患者さんをご紹介いただけるようスタートした『先生ってこんな人』シリーズ。第23回目は糖尿病内分泌内科の坂口賢太郎先生のインタビューをお届けします。

---

### ご出身は？

岐阜市の北部、八代で生まれ育ちました。両親とも飛騨出身で父方は飛騨市宮川町に、母方は下呂市小坂町に祖父母の家があるので、幼い頃は休みの度に遊びに来ていました。

糖尿病内分泌内科  
(鳥取大学 H30 年卒)

さかぐち けんたろう  
**坂口 賢太郎** 医師



### どんな学生時代でしたか？

中学生の頃はパソコン部に所属し、ホームページを作成し大会に出場していました。元々文系脳で日本史や地理の方が得意だったので、郡上八幡、飛騨古川、高山の古い町並みを訪れホームページに使う写真を撮りに出かけましたし、土木事務所勤めの父と新しい道路ができる度に見に出かけ県内津々浦々マイナーな場所にも足を運びました。当時は国土地理院に勤めたいと思ったこともありますし、今でも道路関係のYouTube をついつい見えています(笑)。

高校に入学すると友人に誘われクイズ研究部に入部しました。「高校生クイズ」は東海地区大会の決勝戦で負けましたが、約3名でチームを組むので同部活内でもライバル同士、部内で競い合い切磋琢磨したことはいい思い出です。高校2年生の夏まで活動し、それ以降は自宅・高校・塾の往復の毎日。放課後は駅前にある塾まで自転車を走らせ、帰りは約1時間かけて自宅に帰っていました。





### 医師を目指したきっかけは？

幼い頃から親しみがあつたこの地域に貢献できる職業に就きたいと思ったことが原点です。当初、「国土地理院に勤めたらどう飛騨に貢献できるだろう」と思いましたがイメージを膨らすことができずにいたところ、「医師になればこの地域の一助になれるかな」と思ったんですね。身近に医療関係者のいなかった僕は郷土愛が発端となり、地域貢献への好奇心が医師になる原動力になりました。

とはいえ文系であることに変わりないので(笑)、受験は二次試験に物理・化学のない鳥取大学を選びました。高校3年生時の担任の先生は物理が専門でしたので申し訳ない気持ちもありましたが(笑)。



### 鳥取大学での思い出は？

大学では地域医療研究部に所属し、鳥取県の小さな集落に1週間滞在し昼には各家庭にお邪魔して住民の健康問題を調査。夜は結果を持ち寄りスライドを作成し、住民のみなさんにプレゼンテーションをする活動をしていました。鳥取も田舎で人が良く学生の僕らを快く迎えて下さり、年間を通じて集落の行事に参加させていただきました。地域によって気候や食事、話し言葉が異なるように、健康問題にも地域性があることを学びました。

内科医となった今、患者さんの日常に想像を膨らませ、病気そのものだけでなくその背景も注意深く診させていただくようにしていますが、医学生時の活動が今に活かされていると感じます。

もうひとつ所属していたゴルフ部では部長も務めるほど熱中し、毎年大会に出場しました。鳥取は今でも毎年訪れる大好きな土地です。



## 鳥取大学卒業後、飛騨で医師のキャリアをスタートしたのですね。

学生の頃、高山日赤に病院見学した際、糖尿病内分泌内科のカンファレンスに同席させていただいたとき、柴田敏郎先生の下で勉強させていただきたいという思いに至りました。今振り返っても3・4年目と在籍して良かったと思います。

レジデント1年目、はじめての指導医が藤澤太郎先生（現：木沢記念病院勤務）だったことも幸運でした。「内分泌は手技がない分カルテを人一倍書くこと」や、「生活背景を丁寧に診ること」を教えていただき、忙しい当直中でも出来る限りそうしています。また、土日両日とも先生は回診を抜かることはありませんでした。僕もどうしても用事がない限り、回診を欠かさないようになりました。



糖尿病内分泌内科  
(鳥取大学 H30年卒)

さかぐち けんたろう  
**坂口 賢太郎 医師**

## 糖尿病内分泌内科を選択したきっかけは？

柴田敏郎先生との出会いは然ることながら、大学3年時の座学の段階で一番興味が持てたこと、病院実習で訪れた松江市内の市中病院の先生に面白さを教えていただいたことも影響しています。

患者さんの病歴と身体所見を注意深く聴取・診察すると意外に多くの内分泌疾患が隠れていることがあり、発見し治療に導けるところに醍醐味があるのではないかと思います。内分泌は地味で難解な印象もありましたが、臨床症状が薄い患者さん、典型的な患者さん様々で診療経験を積んでも新しい発見があるように思いましたし、日々移り変わる患者さんの容体や検査データから今後起こり得ることを予測していく事も刺激的で、ディスカッションを重ねるたびに奥深さを感じ、自然とその面白さに傾倒していきました。





### 3年目、4年目とキャリアを重ね 心境の変化はありましたか？

医師になって2年目の秋・冬と祖父母を立て続けに当院で見送りました。普段医師として人の死に携わることはあっても、亡くなったあとのことは当然無知です。身内のひとりとして葬儀に参列した際、親族が悲しみ泣く姿をみて死の重みを改めて実感し、人生を終えるまで想いを馳せることができる医師になりたいと思いました。この経験がその後の自分にどう影響したかはわかりませんが、治療しお帰しするだけでなく患者さんの生活基盤やQOLに配慮した診療に努めたいと思います。

また1年目から主治医制で患者さんを受け持ったことは非常に勉強になりました。救急外来では医療圏域唯一の3次救急病院ということもあり、何がくるかわからない野戦病院のようでしたが(笑)、おかげで一般的な内科事項から救急対応までに必要な幅広い知識と技術が身についたと思います。

今後専門性を高めていく必要性は感じるものの、ドクターGに出演する総合内科医のようにはいきませんが、総合内科の視点は大切にしたいですね。

### 来年4月に高山を離れますが 心境はいかがですか？

都会は優しい患者さんばかりではないと思うので少し緊張しますが、来年は専門を強化するステージと思い頑張りたいと思います。

今も医師として飛騨地域の一助になりたいという気持ちに変わりはないので、将来はこちらに戻ってきたいですね。





### 休日はどのように過ごしていますか？

1 週間のスケジュールはだいたい決まっています、土日は午前中回診に行き検査結果を確認したあと昼過ぎに帰宅。遅めのランチに中華そばを食べに出かけるとあっという間に夕方になっています。

中華そばはいろいろな店に出かけました。「やよいそば」や「宮川中華」も好きですが、お気に入り「高砂」。毎週のように中華そばを食べていますね(笑)。

旅行も好きなのでコロナが落ち着いたなら旅行にも出かけたいと思います。



### 開業医の先生・医療連携の関係者の方々へ

開業医の先生には十分なお返事が出来ているかどうか…、これまで患者さんのご紹介を通じてお世話になり誠にありがとうございました。患者さんのなかには旧市外から時間をかけてバスでお越しになる方も多くいらっしゃいます。外来までお越しになり診察させていただけることに感謝を忘れず、治療に当たらせていただきたいと思います。

また、患者さんの日常やご家族のことなど生活背景を詳細にお伝えいただくお手紙をいただくことがあり、その度に頭が下がり医師として背筋が伸びるような思いです。高齢者は特に病院の行き来が頻繁になりますが、治療のみですぐお返しするのではなく患者さんの様態が安定し生活の不安が解消することを見届け、逆紹介させていただきたいと思っています。

来年3月末まで勤務もあと少しですが、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。